

地域学校協働連携NEWS



こちらの二次元コードから、閲覧・ダウンロードができます →

防災教室 ～ 朝日小学校 ～

7月18日(木)、朝日小学校の防災教室の様子取材しました。13年前に起きた「平成23年7月新潟・福島豪雨災害」について知り、防災意識を高める目的で開催されました。家族から当時の話を聞いている子もいましたが、子供たちにとっては生まれる前に起きた災害ということもあり、詳しいことを知らない子もいました。災害体験者の話を聞くため、災害時に区長や副区長をされていた菅家さんと吉津さん、只見小教員として避難所対応をした飯塚さんの3名をゲストティーチャーにお迎えして、それぞれが体験された当時の話を聞かせていただきました。子供たちは、普段と全く異なる朝日地区や町の災害時の様子を見て驚きの声を発しながら、講師や先生の話に真剣に耳を傾け、防災意識を高めていました。

～ 平成23年7月 新潟・福島豪雨災害を体験された方の話を聞こう ～



黒谷区副区長をされていた菅家さん



長浜区長をされていた吉津さん



只見小に勤務していた飯塚さん



画像で被災時の様子を確認しました



食い入るように見つめる児童



最後に災害体験児童の作文を聞きました

<子供たちの声>

- ・災害が発生した年に私はまだ生まれていませんでした。当時の写真を見てあの日の豪雨がどれだけ恐ろしいものだったかが分かりました。あの日のことを忘れずに後世につないでいきたいです。
- ・僕が生まれる2年前のことでしたが、2年ずれていたらと考えるととても怖いと思いました。
- ・只見町がこのような水の被害にあっていることを、私は今回の話を聞くまで知りませんでした。
- ・今日のお話を聞いてあらためて災害のこわさを知りました。(自然はきれいだけとおそろしい。)
- ・私は只見町でも水害があったなんて思いもしませんでした。小川橋が折れて流されるなんて想像できなかったで、とてもびっくりしました。いつおきても困らないように心構えをしておきます。

今回の防災教室は一学期終業の前日に行われました。それは、夏休みに入る前に過去の災害を教訓にして一人一人の防災意識を高めたいという校長先生の願いが込められています。13年が経過し、この豪雨災害を知らずに生まれ育っている子供たちがいることも現実です。今回の訪問を通じて、地域の方々と協働しながら、地域で起きた過去の災害を風化させず新たな世代に語り継いでいくことの大切さを再認識しました。